

営農振興の新たな拠点

# 産直 母ちゃんハウス だあすこ沿岸店

# オープン

待望のオープン

1月15日、晴天のもと、母ちゃんハウスだあすこ沿岸店がオープンしました。

だあすこ沿岸店は、大槌町が昨年建てた「大槌町沿岸営農拠点センター」内にあり、JAの大槌支店や東部地区営農センターを合築。東日本大震災で被災した沿岸地域の農業活動の復興拠点とする事はもちろん、地域住民のよりどころとしての役割も果たします。

建物は鉄骨造で、売り場の床面積は203㎡、食堂は53㎡です。農林中央金庫をはじめとするJAグループからは店舗内の設備や資材の支援を頂きました。また、平成30年開通予定の三陸沿岸道路・大槌インターチェンジ（仮称）とのアクセスが良いこともあり、県内外から多くの人が立ち寄る場としても期待されています。



開店と同時に大勢の買い物客でにぎわう店内



姉妹提携を結んでいる和歌山県のJA紀の里のミカンの詰め放題は大人気



JA沿岸産直部会やJA女性部による甘酒のお振る舞い



開店を待ち望んだ多くの人が見守る中、新たな門出を盛大に祝ったテープカット



JA大槌支店も合築しています

だあすこ沿岸店を核とした地域農業の活性化

開店を前に行われたオープニングセレモニーでは、高橋専太郎組合長が「このセンターを拠点とした、協同活動と生産活動の展開で復興に力を入れていく事を改めて決意した。国や大槌町、農林中央金庫やキリン（株）などから多くの支援を頂き実現する事が出来たこのだあすこ沿岸店は、安全安心を消費者に届けるという使命を果たすだけでなく、農業生産者の販売の場や意欲向上、そして地域農業の復興など多くの機能を担っている。この場所を核として沿岸地域を更に活性化させていきたい」と力強く語りました。



新鮮野菜の出荷作業。JAスタッフと話し合いながら陳列方法を工夫する生産者

にぎわう店内

午前11時いよいよオープン。この日お待ちわびた多くの人々に見守られながら、テープにはさみが入れられ新たな門出を盛大に祝いました。

新鮮な農作物や手作り菓子、海産加工品などがズラリと並ぶ店内には、

開店と同時に来場者が次々と訪れ、色とりどりの品物を手に取りながら品定め。店内は活気に満ち、たくさんの笑顔が溢れました。

1月15日～17日はオープンセールが行われ、3日間で2334人が来店。日替わりで紅白餅や卵などを先着200名にプレゼントしたほか、JA沿岸産直部会やJA女性部による餅つきや甘酒などのお振る舞い、JAと姉妹提携を結んでいる和歌山県のJA紀の里のミカンの詰め放題など、さまざまなイベントが行われ、にぎわいをみせました。



ズラリと並ぶ地元野菜を品定め



「安全安心で新鮮な地場産品に期待している」と笑顔を見せる買い物客